

シリア文化財救済支援 寄付・協賛金ご協力をお願い

2011年4月に始まったシリアの内戦は、終結を見ないまま4年が経過しました。戦況は激化の一途をたどり、日々多くの生命が奪われ続けています。同時に、シリア国民にとってはもちろんのこと、人類全体にとってもかけがえのない悠久の歴史と文化の遺産、平和で豊かな暮らしの象徴でもある文化財が、無惨にも破壊・強奪・盗掘されるという痛ましい事態が発生しています。

シリア国内の文化財関係者は、こうした自らの歴史的・文化的いしづえを否定するような行為を憂うとともに、この苦境下にこそ使命を全うしようと、文化財を護り伝える懸命の努力を続けています。しかし、シリア国内が物心両面で厳しい状況に置かれている今、人類共通の遺産を護り抜くためには、目先の利害を超えた海外からの支援・協力が不可欠であり、シリア文化財関係者もその実現を強く願っています。

そこで、長年の学術調査・研究を通じてシリアとの深い絆を育んできた日本西アジア考古学会は、文化財救済に向けた支援活動の実施を計画しています。しかしながら、必要経費の捻出に目処が立っておりません。そのため、まずは次の二つの支援活動についてご賛同いただける方々に、ご協力を心よりお願い申し上げます。

なお、当学会では今後も必要な支援活動を継続していく所存です。つきましては、皆様の温かいご理解とご支援を重ねてお願い申し上げます。

2015年6月

日本西アジア考古学会



ハルミラ遺跡 南東墓地 H 号墓
(かつて日本隊が調査・修復)



(被害発生前)

(被害発生後)

支援策①: 「シリア考古学会議」の開催

2010年当時、シリアでは80におよぶ海外からの遺跡調査団が活動していました。しかし、内戦のぼつ発後、これらの調査関係者とシリア文化財関係者とが一同に会する場は失われてしまい、それぞれの調査で解き明かされた貴重な研究成果は、学界内で十分に共有されているといえません。人類共通の資産を扱う学問倫理の上で、不健全な状態が続いています。そこで、私たちはシリア本国を含む世界中の研究者に参加を呼びかけ、「シリア考古学会議 (Syrian Archaeological Congress)」を開催いたします。

この会議の目的は、各遺跡調査で得られた研究成果の共有を図るとともに、シリアの文化遺産の重要性と可能性を互いに再認識し、今後のシリア考古学の健全な発展と文化財の保全・復興に向けた国際的な施策を議論することにあります。開催時期は2015年12月上旬を予定し、シリアから往来可能なレバノン・ベイルートを開催地とします。一人でも多くのシリア文化財関係者を招き、海外の研究者たちと広く交流を深めてもらうことで、苛酷な現実に向き合っている人びとを勇気づけたいとも願っています。

必要な経費・・・約500万円

シリア文化財関係者20名×3日分の旅費、会場賃借料等

支援策②: 文化財保全のための資材提供

現在、シリア国内の博物館では、展示・収蔵品を破壊や強奪から護るため、梱包する作業が進められていますが、資材の不足やその品質の低さから、長期にわたる展示・収蔵品の保全が不安視されています。そこで、私たちは適切な梱包用資材をシリア国内の博物館に提供いたします*。

今後、シリア文化財関係者の声を聞きながら、梱包用資材の他にも、文化財の保全と復興に必要な資材を提供していきたいと考えています。

*2015年3月16日、レバノン・ベイルートにて日本、シリア、レバノンの関係者が集った際、シリア文化財関係者から示された要望です。日本政府は、現在シリアに対して経済制裁や退避勧告を発令しており、資材を直接移送することはできませんので、レバノン等の第三国の協力を得て実施する予定です。

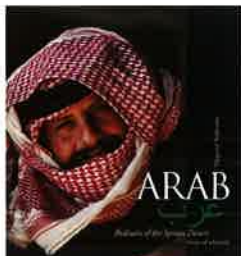
必要な経費・・・約100万円

資材代金、送料等

支援の実現に向けて寄付・協賛金を募ります 皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます

1口あたりの金額の多寡は問いません。

ご協力いただける場合は、おいくらでも構いませんので
下記のいずれかの口座にお振り込みください。



振込先 口座名義 日本西アジア考古学会 (ニホンニシアジアコウコガツカイ)
・ゆうちょ銀行 郵便振替 00160-0-292187
他行からの振込 ○一九 (ゼロイチキュウ) 店 当座 0292187
・三井住友銀行 伊勢原支店 (868) 普通 6968076

お問い合わせ先 日本西アジア考古学会事務局 (Fax. 029-853-4432 / E-mail office@jswaa.org)

1万円以上ご協力いただいた先着200名様に吉竹めぐみ氏の写真集「ARAB」をお送りいたします (著者よりご寄贈いただきました)